

※別紙

13. 利用者処遇

・動機の中で「こどもたちの特別な感覚に合わせた自由になれる・自分らしく過ごせる場所を増やしたい」とあるが、具体的な療育内容は何を想定しているか。実例を交えて説明すること。

➡現在、支援者が事前に近隣の方との関係性を築きながら（この子たちの可愛さや特性を伝える等）、こどもたちが自分らしく・自分で決める生活が送れる場所を探しています。知的障がい・発達障がいのある子への理解のある方や感心がある方がおられる場所からの社会体験をスタートし、自分たちが受け止められていることを実感しながら、経験を積み重ねることを大切にしていきます。

実例としては、近隣の方が所有されている畑のお手伝いをさせもらえることになっています。また、美容院やワークショップをされている方等との繋がりもできたことから、その子のペースに合わせながら“本物の体験”に繋げていきます。

事業所内では、クッキング活動を多く取り入れ、この先“食”に困らないよう、ひとりひとりがどこかに関心が向けられる調理過程を準備します。また、すきなあそびや、こだわりにたっぷり向き合える時間も保障し、支援者がその子の願いに寄り添う時間も大切にします。